

平成 22 年 5 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19330035
 研究課題名（和文）ロシア帝国と「東北アジア」の成立 —国際関係史の視点から—
 研究課題名（英文）Imperial Russia and the Emergence of “Northeast Asia” from the
 Viewpoint of International Relations
 研究代表者
 中見 立夫（NAKAMI TATSUO）
 東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授
 研究者番号：20134752

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、1850年代からロシア帝国が崩壊する1910年代までの時期を対象として、ロシア帝国の東アジアに対する外交政策、これに対する清朝、朝鮮、そして日本の対応をみながら、その過程で“東北アジア”とよばれる地域が、どのように形成されたかについて、実地調査と史料・文献研究の両面から考証することを目的とした。ロシア連邦、モンゴル、中国において実地調査をおこなったほか、ヨーロッパ、米国、韓国などの文書館においても史料調査を実施し、オーストラリア国立大学東北アジア研究プロジェクトと共催で研究集会をおこなうなど、成果の海外発信にも留意した。

研究成果の概要（英文）：This project traces changes in Imperial Russian foreign policy toward East Asia and Qing China, Japan and Korean responses to Russia from the mid 19th century to 1917. It investigated when and how the regional concept of “Northeast Asia” appeared on the world map. The project was implemented through field work at historical sites in the Qing-Russian border area and also by archival research in Russia, China, Korea, and European countries. Several international workshops discussing “Imperial Russia and Northeast Asia” were organized in Australia and Japan.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2008年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2009年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
総計	15,100,000	4,530,000	19,630,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：外交、国際関係史、東北アジア、帝国、地域、経済圏、露中関係

1. 研究開始当初の背景

従来、日本の学界においては、ロシア史研究と東アジア史研究は別個の研究分野とされ、両研究領域の研究者が共同研究をおこなうことは稀であった。近年、注目をあびる「東北アジア」という地域が、ひとつに認識されるのは、19世紀後半以降のことである。つまりロシア帝国の東アジアへの進出と「東北アジア」という地域の成立は不可分に結びついていることに着目し、ロシア史研究者と、東アジア国際関係史・地域史研究者が、国際関係の展開と地域の形成という角度から、共同研究をおこなうこととした。

2. 研究の目的

本研究課題では、19世紀中葉以降 20世紀初頭まで、具体的には愛琿・北京条約が締結された、1850年代からロシア帝国が崩壊する1910年代までの時期を対象として、ロシア帝国の東アジア（清朝中国、日本、朝鮮）に対する外交政策、これに対する清朝、朝鮮、日本の対応を検討しながら、「東北アジア」という地域が、どういう過程をへて形成されるに至ったかという視点から、フィールドワークをもおこないながら、あらたな地域史像と国際関係観を構築することを意図した。

3. 研究の方法

(1) 研究組織は、近代東アジア国際関係史研究者とロシア史研究者からなる「外交・国際関係班」（ロシア史料担当3、漢文史料担当2、満洲語史料担当1）と、東北アジア地域史研究者とロシア史研究者による「地域動態班」（ロシア史料担当3、漢文史料担当2、満洲語史料担当1）の二班から構成された。「外交・国際関係班」は、対象とする時期の、ロシア帝国と清朝中国を中心に、朝鮮そして日本との外交関係の展開を、具体的な文書史料をもとに分析した。「地域動態班」は「東北アジア」という地域が形成される過程を、現地の諸勢力の視座から、さらに当該地域での経済圏形成に国際関係がどう影響をあたえたか、という視点から、両班の合同討議により研究課題に取り組んだ。

(2) 当該研究課題に関連する、歴史的に重要な地域（とくに露清両国の交渉の場で、日

本の研究者が、従来、訪れることが稀であった、ロシア連邦内のネルチンスク、キャフタ、および中国内のチチハルなど）への実地調査。

(3) ロシア、中国、韓国、ヨーロッパの文書館および図書館などに保管される、研究課題に関連する、文書史料と文献資料の調査。

4. 研究成果

具体的な研究成果として、

(1) 史跡調査については、2007年度には、中華人民共和国（新疆ウイグル自治区）、カザフ共和国、2008年度は、モンゴル、ロシア連邦（ブリヤート共和国）、2009年度にはロシア連邦（極東地域）、中国（東北地方）において実施し、あわせて現地の郷土史家とも意見交換をおこなった。

(2) 史料・文献調査は、ロシア（サンクト・ペテルブルグ、ウラディヴォストークなどの文書館）、中国（北京、ハルビン、瀋陽の文書館）、米国（ハーヴァード大学燕京図書館、米国議会図書館など）、英国（国立文書館、英国図書館など）、ドイツ連邦（ボン大学中央アジア言語文化研究室、ベルリン国立図書館など）において、研究計画に関わる資料を調査した。

(3) 研究実施期間中、毎年度2回の研究会を開催したほか、12th European Conference for Japanese Studies（イタリア・レッツェ、2008年度）、Central Eurasian Studies Society 8th Annual Conference（米国・シアトル、2007年度）、ソウル国立大学アジア・センター主催国際シンポジウム（韓国・ソウル、2009年度）などで、研究参加者が成果報告をしたほか、特に重要な実績としては、本研究組織が、同様な研究課題を検討している、オーストラリア国立大学の東北アジア研究プロジェクト（代表者は、Robert Cribb ANU教授）と合同でWorkshop: Mapping the History of Northeast Asia（オーストラリア・キオアラ、2008年度）を開催した。さらにThe 54th International Conference of Eastern Studies（東京、2009年度）において、海外からも研究者を招聘して、研究参加者を中心に、一部会を組織した。あわせて、

(4) 研究活動の成果報告の一環として、19世紀末に朝鮮王朝政府の顧問をつとめた米

国人O・N・デニーが、当時の東北アジア国際関係を論じた英文著作で、今日では古典的な史的価値をもつ、『清韓論/China and Korea』の英文テキスト校訂本および日本語訳注を出版した。

以上の成果をもとに、研究課題をさらに発展させるために、国際共同研究を企画・準備している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 57 件)

- ① 中見立夫, “Иван Яковлевич Коростовец: Бурная жизнь русского дипломата и его литературное наследие”, *Иван Яковлевич Коростовец, Девять месяцев в Монголии: Дневник русского уполномоченного в Монголии*. (Улаанбаатар: ADMON, 2009), стр.30-40. 査読無。
- ② 中見立夫, “On the Papers of George Ernest Morrison Kept in the Mitchell Library, Sydney”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko* No.67 (2009), pp.1-30. 査読有。
- ③ 石川亮太, “Commercial Activities of Chinese Merchants in the Late 19th Century Korea: with a focus on the documents of Tong Shun Tai archived at Seoul National University, South Korea”, *International Journal of Korean History* Vol. 13, March 2009, pp.75-97. 査読有。
- ④ 柳澤明, 「清朝とロシア: その関係の構造と変遷」、岡田英弘編『別冊環 16: 清朝とは何か』、藤原書店、2009年、191-200頁、査読無。
- ⑤ 柳澤明「清代モンゴル東部辺縁地域における「民族」の接触と変容—嫩江中流域の旧八旗地帯を中心として」、岡洋樹編『内なる他者=周辺民族の自己認識のなかの「中国」: モンゴルと華南の視座から』、東北大学東北アジア研究センター、2009年、83-100頁、査読無。
- ⑥ Saveliev, Igor, 「日露関係の「黄金時代」を構築して—本野一郎と日露接近1906-1916年」、中村喜和、長縄光男、ポダルコ・ピョートル編『異郷に生きるV—来日ロシア人の足跡—』、成文社、2010年、93-103頁、査読有。
- ⑦ 佐々木揚, 「清末の「不平等条約」観」『東アジア近代史』13号、2010年、12-37頁、査読有。
- ⑧ 岡本隆司, 「清仏戦争の終結—天津条約の締結過程」、『京都府立大学学術報告 (人文・社会)』、第61号、2009年、19-34頁、査読無。
- ⑨ 上田貴子, 「奉天—権力性商人と糧棧」、安富歩・深尾葉子編『「満洲」の成立』、名古屋大学出版会、2009年、365-416頁、査読有。
- ⑩ 石川亮太, 「개항기 중국인상인의 활동과 정보매체: 동순대서간자료를 중심으로」, 『奎章閣』33号、2008年、183-234頁、査読有。
- ⑪ Wolff, David, “Riding Rough: Portsmouth, Regionalism and the Birth of Anti-Americanism in Northeast Asia” *The Treaty of Portsmouth and Its Legacies* (Dartmouth College Press, 2008), pp.125-141. 査読無。
- ⑫ Wolff, David, “Cultural and Social History on Total War’s Global Battlefield” *Russian Review* 67, 2008, pp.70-77. 査読有。
- ⑬ 中見立夫, 「「元朝秘史」渡来のころ—日本における「東洋史学」の開始とヨーロッパ東洋学、清朝「辺疆史地学」との交差—」『東アジア文化交渉研究』別冊4、2009年、3-26頁、査読無。
- ⑭ 中見立夫, 「田川孝三の昭和十四年満洲国“史料探訪”—史料状況の記録—」『満洲史研究』第7号、2008年、95-113頁、査読有。
- ⑮ 中見立夫, 「大橋忠一と須磨弥吉郎—異色外交官の戦前・戦中・戦後—」『東アジア近代史』第11号、2008年、67-87頁、査読有。
- ⑯ 佐々木揚, 「最近10年間の中国における日清戦争史研究」『東アジア近代史』11号、2008年、104-118頁、査読有。
- ⑰ 加藤直人, 「關於美国国会図書館収蔵の清代档案」『明清档案与歴史研究論文集 慶祝中国第一歴史档案馆成立80周年』上冊 (北京・新華出版社)、2008年、121-126頁、査読無。
- ⑱ 岡本隆司, 「清仏戦争への道—李・フルニエ協定の成立と和平の挫折」、『京都府立大学学術報告 (人文・社会)』、第60号、2008年、79-97頁、査読無。
- ⑲ 上田貴子, 「総説」および「東北アジアにおける中国人移民の変遷、1860-1945」、蘭信三編『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』不二出版、2008年、201-216頁、313-342頁、査読無。
- ⑳ 中見立夫, 「《滿文大藏經》の探索、考证及其復刊」、『故宫博物院八十华诞暨国际清史学术研讨会论文集』、北京、紫禁城出版社、2007年、523-530頁、査読無。
- ㉑ 中見立夫, “Search for the *Secret History of the Mongols*: Qing and Japanese Scholars’ Mongol Historical Studies in the 19th-Early 20th Centuries”, *Essays on Mongol Studies*, 2007, pp.128-137. 査読無。
- ㉒ 中見立夫, 「宣統三年夏の庫倫」、細谷良

- 夫編『清朝史研究の新たな地平—フィールドと文書を追って—』、山川出版社、2007年、310—330頁、査読無。
- 23 加藤直人、「八旗の記録が如何に史書となったか」、細谷良夫編前掲書、4—21頁、
- 24 江夏由樹、「近代東部内モンゴルにおける蒙地払い下げ—日露戦争後、土地利権争奪をめぐる中国と日本の官民関係」、細谷良夫編同上書、334—357頁。
- 25 江夏由樹、「日露戦争後、関東都督府・関東庁による取引所の創設—近代中国東北地域における特産物、貨幣、証券市場の展開」、『東北大学東洋史論集』第11輯、2007年、第11輯、307—330頁、査読有。
- 26 柳澤 明、「駐防城チチハルの風景—康熙五十年代を中心に」、細谷良夫編前掲書、52—73頁。
- 27 岡本隆司、「属国と保護のあいだ—1880年初代頭、ヴェトナムをめぐる清仏交渉」、『東洋史研究』第66巻第1号、2007年、1—31頁、査読有。
- 28 岡本隆司、「朝貢」と「互市」と海関」、『史林』第90巻第5号、2007年、87—109頁、査読有。
- 29 Saveliev, Igor, "Les nouveaux immigrants chinois sur le marche du travail russe: menace ou pari sur l'av enir?", Laurence Roulleau-Berger (ed.) *Nouvelles migrations chinoises et travail en Europe* (Presses Universitaires du Mirail, 2007), pp. 45-66., 査読無。
- 30 Saveliev, Igor, "The Transition from Immigration Restriction to the Importation of Labor: Recent Migration Patterns and Chinese Migrants in Russia" *International Development Forum*, No35, 2007, pp.21-35, 査読有。

[学会発表] (計 38 件)

- ① 中見立夫, "The Search for the Manchu Buddhist Canon: Its 'Discovery', Study, and Reissue", Research colloquium: 'Religion and Manchu society, 1600-2009', 2010年2月17日, London: School of Oriental & African Studies.
- ② 中見立夫, "From 'Tartary' to 'Northeast Asia': Search for a Portion of 'Asia'", International Conference "Asia in the Changing world: Looking Back and Forward", 2009年9月23日, Seoul: Seoul National University Asia Center (SNUAC).
- ③ 中見立夫, 「清朝“边疆史地学”与日本“东洋史学”的交流—《元朝秘史》抄本的来日—」, 第十三届国际清史学术研讨会, 2009年9月19日, 北京: 九华山庄。
- ④ 石川亮太, 「開港期朝鮮における華商の活動と広域ネットワーク」、社会経済史学会第78回全国大会, 2009年9月27日, 東洋大学。
- ⑤ 佐々木揚, 「佐々木揚「清末中国の「不平等」条約観」、東アジア近代史学会研究大会シンポジウム, 2009年6月20日, 東洋大学。
- ⑥ 中見立夫, "The Qing Empire and Its Neighbors—Myth and Reality", The 54th International Conference of Eastern Studies, 2009年5月19日, 日本教育会館。
- ⑦ Rawski, Evelyn S., "State Rituals and Ming-Chosŏn Relations", *ibid.*
- ⑧ Di Cosmo, Nicola, "The Principle of Tutelage in the Formation of the Qing Empire" *ibid.*
- ⑨ 柳澤 明, 「清帝国の非漢語世界—文書と現地から—」, 早稲田大学アジア研究機構第5回シンポジウム「早稲田アジア学」、2009年5月22日, 早稲田大学。
- ⑩ 柳澤 明, 「「新満洲」について—その意味の伸縮—」, 研究セミナー「清朝社会の多様性をさぐる」、2009年3月13日, アジア・アフリカ言語文化研究所。
- ⑪ 劉小萌, 「清末民初旗族」、同上セミナー。
- ⑫ 中見立夫, "The Search for 'Northeast Asia' on the World Map: Japanese Approaches", Workshop: Mapping the History of Northeast Asia, 2008年11月29日, Kioloa, Kioloa Coastal Campus of the Australian National University.
- ⑬ 加藤直人, "On some Manchu documents concerning the people of the Great Xing-an-ling Region", *ibid.*
- ⑭ 中嶋毅, "Educating Engineers in Russian Harbin, 1920—1958", *ibid.*
- ⑮ 中嶋毅, 「『満洲国』時代のハルビンのロシア人高等教育」、研究セミナー「ハルビン—異種混交の街」、2008年7月12日東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- ⑯ Saveliev, Igor, 「第一次世界大戦期の中国人移民—ハルビンにおける契約労働者の募集及び帰国問題と中東鉄道の役割—」、同上セミナー。
- ⑰ 上田貴子「商工業者からみる哈爾濱の中国人社会」、同上セミナー。
- ⑱ Olga Bakich, "Russian life stories at Harbin after the end of WW2 viewing from my own experiences", 同上セミナー。
- ⑲ 中見立夫, 「日本の東洋史学者と「実録」」、財団法人東方学会第58回全国会員総会講演会, 2008年11月8日, 京大会館。
- ⑳ 中見立夫, "The Russo-Japanese Entente and the 'Manchuria-Mongolia (Man-Mo) Question'", The 12th European Conference for Japanese Studies, 2008年9月20

日, Lecce: Hotel Tiziano.

21 柳澤 明、「内陸世界における「互市システム」の形成とその特徴—対ロシア貿易をめぐる—」、The 52th International Conference of Eastern Studies、2007年5月18日、日本教育会館。

〔図書〕(計8件)

- ① 岡本隆司校訂・訳注、東北アジア文献出版会、『O. N. デニー著清韓論』、2010年、102頁。
- ② 楠木賢道、加藤直人、中見立夫、細谷良夫、松村潤編、財団法人東洋文庫、『内国史院档 天聡八年(本文、索引・図版)』(全2冊)、2009年、xxvi+413、417-709頁。
- ③ 岡本隆司・川島真編、東京大学出版会、『中国近代外交の胎動』、2009年、242頁。
- ④ 岡本隆司、講談社、『世界のなかの日清韓関係史—交隣と属国、自主と独立』、2008年、204頁。
- ⑤ 岡本隆司、京都大学学術出版会、『馬建忠の中国近代』、2007年、350頁。
- ⑥ Wolff, David ed. (coedited with Steven Marks, Bruce Menning, David Schimmelpenninck John Steinberg and Yokote Shinji), Brill: Leiden, *World War Zero: The Russo-Japanese War in Global Perspective, Volume 2*, 2007, 583 p.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中見 立夫 (NAKAMI TATSUO)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授
研究者番号：20134752

(2) 研究分担者

原 暉之 (HARA TERUYUKI)
北海道情報大学・経営情報学部・教授
研究者番号：90086231
(H20→H21：連携研究者)
佐々木 揚 (SASAKI YO)
佐賀大学・文化教育学部・教授
研究者番号：90136581
(H20→H21：連携研究者)
SAVELIEV, Igor
名古屋大学・国際開発研究科・准教授
研究者番号：60313491
(H20→H21：連携研究者)
岡本 隆司 (OKAMOTO TAKAJI)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：702607422
(H20→H21：連携研究者)
土屋 好古 (TSUCHIYA YOSHIHURU)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：70202182

(H20→H21：連携研究者)

柳澤 明 (YANAGISAWA AKIRA)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：50220182

(H20→H21：連携研究者)

江夏 由樹 (ENATSU YOSHIKI)

一橋大学・経済研究科・教授

研究者番号：101940021

(H20→H21：連携研究者)

加藤 直人 (KATO NAOTO)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：90130468

(H20→H21：連携研究者)

WOLFF, David

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：60435948

(H20→H21：連携研究者)

中嶋 毅 (NAKAJIMA TSUYOSHI)

首都大学東京・都市教養学部・准教授

研究者番号：70241495

(H20→H21：連携研究者)

石川 亮太 (ISHIKAWA RYOTA)

佐賀大学・経済学部・准教授

研究者番号：00363416

(H20→H21：連携研究者)

上田 貴子 (UEDA TAKAKO)

近畿大学・文芸学部・専任講師

研究者番号：00411653

(H20→H21：連携研究者)

(3) 連携研究者

*上記「研究分担者」12名は、初年度は「研究分担者」であったが、2008年度より、全員、「連携研究者」へ移行した。